



1998年10月30日

この秋ヨーロッパにて発表された フォルクスワーゲンのニューモデルのご案内

この秋、フォルクスワーゲンでは数々のニューモデルをヨーロッパにて発表致しました。日本市場への導入はそれぞれ未定ですが、ここにいくつかのニューモデルを取りまとめてご紹介いたします。

Lupo(ルポ) 8月31日発表

ルポは、ポロより小さいセグメントに位置づけられるフォルクスワーゲンのサブコンパクトクラスのニュースタンダードとして開発されました。

全長3,527mmのルポは大変コンパクトで扱いやすいクルマですが、4人ないし5人がゆったりと座ることのできる室内空間を実現しています。

ウォルフスブルグにあるフォルクスワーゲンの本社工場で生産されるルポは、このクラス初の総亜鉛メッキ処理(フルジंक)を施したモデルです。このフルジंकボディの採用により、フォルクスワーゲンはルポに12年間の錆穴保証を可能としています。

ルポに搭載されるエンジンは、新型1.0リッター4気筒37kw(50PS)エンジン、1.4リッター55kw(75PS)エンジン、そして1.7リッター44kw(60PS)SDI(直噴自然吸気ディーゼル)エンジンの3種類です。いずれのエンジンもEU- D排ガス基準に適合しています。また、1.7リッターSDIエンジンの燃費は5リッターのガソリンで100kmの走行(リッターあたり20km)が可能であり、保険料の優遇(ドイツの場合)等を考えると、ルポの維持費はかなり安く押さえられることとなります。

フロント先端にはオプティッククリアガラスを採用した円形のヘッドライトが、表情豊かで親しみやすい外観を創り出しています。また、インテリアも、美しく配置された計器類や大胆な色使い等から、個性的で若々しくダイナミックな雰囲気を出しています。装備パッケージも3種類の中から好きなタイプを選択できるよう設定されており、さらにオプションで、ABS、前席/サイドエアバッグ、スライディングルーフ等が選べます。

なお、ルポの日本への導入は、現在予定されておりません。

Bora(ボーラ) 9月16日発表

新しい魅力的なミッドサイズカー、ボーラがフォルクスワーゲンのモデルラインナップに加わりました。アドリア海沿岸を吹くさわやかな風の名にちなんだ名称を持つボーラは、スポーティなデザインと高いレベルのロングドライブにおける快適性と豊かな個性を併せもった、若さあふれるダイナミックな4ドア・ノッチバックサルーンカーです。

ボーラは全長4,376mm、全幅1,735mmで全高1,446mm。ホイールベースを2,513mm確保しているため、5人が快適にドライブできる居住空間を生み出しています。

そのスタイリングが主張するのはスポーツ感覚。鮮烈で新しいかたちのダイナミズムです。際立つフロントの特徴は、角型のクリアガラス・ヘッドライトとフロントグリル。ボーラの大胆な外観を際立たせるのは、ワイドなトレッドとダイナミックなイメージのバンパー、加えて195タイヤを装着した15インチホイールによって、スポーティでありながら快適な走りが約束されています。

総亜鉛メッキ処理が施されたボディは、際立った堅牢性を有しており、その防錆性によりフォルクスワーゲンは12年間の錆穴保証を実施しています。ボーラには、3タイプのガソリンエンジンと2タイプのTDI直噴式ターボディーゼルエンジンが設定されています。

1.6リッター- 4気筒74kW(100PS)	アルミブロックのエントリーモデルエンジン
2.0リッター- 4気筒85kW(115PS)	スポーティな性能とクリーンな排ガスとの両立を図った新エンジン
2.3リッター- V5(5気筒) 110kW(150PS)	滑らかで余裕のパワ - を生出す独創的なエンジン 0-100km/hは9.1秒。最高速度216km/h
1.9リッター- 66kW(90PS),TDI	経済的なハイトルクエンジン
1.9リッター- 81kW(110PS),TDI	優れた性能と低燃費を両立させる高出力エンジン

広い空間のインテリアは、選びぬかれたシート生地とトリムのコンビネーションによって際立ったエレガンスを醸しだし、鮮やかなブルーに輝く4個の丸型メーターがアクセントを添えます。しかし最も大きな特長は、ポールのインテリアに見られる多くの人間工学に基づいたデザインです。例えば運転席では、無段階のシート高さ調整、ステアリングホイールのチルト/テレスコピック機能により、理想的なドライビングポジションを得ることができます。

パワーステアリング、センターロッキング及びロック機構付き分割式(60:40)折りたたみリヤシートバック等のポールの豊富な標準装備に加えて、「コンフォートライン」、「ハイライン」または「トレンドライン」(来年初頭より開始)という内装・トリムを選択することができます。

標準の安全装備は、現在のみならず未来におけるニーズをも考慮に入れたものです。運転席と助手席用エアバッグ、フロントシートに組込まれたサイドエアバッグ、前後輪ディスクブレーキに電子制御アンチロック ブレーキング システム。これら全てが最高レベルの安全性をお約束します。また、ESP(エレクトリック スタビリティ プログラム)がV5(V型5気筒)エンジンについては標準装備となっています。(その他の車種はオプション) 幼少のお子様にはIsofix標準に適合したチャイルドシート用固定装置がリヤシート下部に装備されています。

その他のポールのオプションとしては、ラジオ付きナビゲーションシステム、キセノンヘッドランプ、16インチホイールや電動調整式フロントシートなどの魅力的な装備が用意されています。

なお、ポールの日本への導入日程については、1999年秋以降を予定しています。

Lupo TDI (3-liter-Lupo)(3リッタールポ) 9月29日パリ・オートサロンにて発表 フォルクスワーゲンは、世界で最も環境にやさしい3リッターカー(燃料消費量が100km当たり3リッターしか必要としない車)を初めてパリオートサロンにて発表いたしました。3リッタールポは、新開発3気筒ディーゼルエンジンと自動変速ダイレクトシフトギアボックスを搭載しています。

空力性能も最適化され、数多くの軽量化された部品が採用され、100km当たり3リッター以下の燃料消費(つまり1リッター当たり33.3km)かつ極めて低い排気ガスを実現しています。

安全、経済性、快適性を何一つ犠牲にすることなく、フォルクスワーゲン3リッターカーは、スモールカークラスで最もインテリジェンスで時代にマッチした明確な輸送コンセプトを提示しています。この革新的な小さな車は、エコロジカルな面だけでなく、小型乗用車として完成しています。外観は、ノーマルのルポと何も異なったところはありません。

燃料消費量は、MVEGに基づく試験モードもしくは、なにも注意深く運転することなくわずかに100km当たり2.99リッターを実現しています。同時に二酸化炭素を1km当たり90g以下に抑えた最初の車です。

クランクケースと1.2リッターエンジンのシリンダーヘッドはアルミ製。最新のハイプレッシャーポンプインジェクターによるターボチャージャー付直噴ディーゼルエンジンは、4000rpmで61PS(45kw)を発生させ、約800kgの軽量ボディに驚くべき性能を与えています。3.4リッターの燃料タンクは、給油なしで1000km以上の走行が可能です。

フォルクスワーゲンは、3リッタールポの特徴として、ティプトロニック付自動変速機能を持つ、インテリジェント5速ダイレクトシフトギアボックスを搭載しています。通常の走行では、エコノミーモードにおいて自動的に変速します。さらにティプトロニックモードにより、スポーツカーのようにマニュアルで変速させることもできます。

また、ルポにはストップ/スタートスイッチが設けられ、クルマが停止状態で4秒たつと、自動的にエ

エンジンがストップし、アクセルペダルを踏むと、また自動的にエンジンがスタートします。わずかに全長3.53mの空力ボディを持つルポは、総亜鉛メッキ処理がなされた軽量シートメタルが採用されています。また、アルミニウム、マグネシウムそしてプラスチックといった軽量素材がボンネット、テールゲート、ドア、バンパーに使用されています。さらに転がり抵抗の低い14インチタイヤを装着しています。若々しいデザインインテリアには、4人の乗員とその荷物のための十分な空間が与えられています。運転席、助手席エアバッグ、ABSといった安全装備が標準で装着されています。フォルクスワーゲンは、この3リッタールポを、1999年春にドイツ市場に投入予定です。価格は未定となっています。なお、3リッタールポの日本への導入は、現在予定されておりません。

New Beetle (ニュー ビートル) 9月29日パリ・オートサロンにて発表

1998年パリ オートサロンにて、フォルクスワーゲンはヨーロッパで初めてニュービートルを発表します。今年3月に米国およびカナダで発売され、驚異的な売上げを記録したニュービートルが、まもなくヨーロッパ各国で販売されることとなります。

当初、コンセプト1という未来的な名称で呼ばれていたこのクルマのアイディアは、カリフォルニア州シミバレーのフォルクスワーゲン デザイン スタジオで誕生しました。若手デザインチームが、新たなスタイルで伝説的なフォルクスワーゲン ビートルをよみがえらせたのです。1994年のデトロイトを皮切りに、東京、ジュネーブなど世界各地のモーターショーで、このコンセプトカーは絶大なる賞賛を浴び、ついに夢が現実となりました。

初期のデザインと異なり、ニュービートルはニューゴルフのプラットフォームに基づいて設計され、前輪駆動およびフロント横置きエンジンが採用されています。16インチ ホイールとABS(アンチロック ブレーキング システム)を標準装備した最新の駆動装置とESP(エレクトロニック スタビリティ プログラム)により、スポーティかつ繊細な操縦性を確保しながら、幅広い安全性が考慮されています。搭載されるエンジンはすべて4気筒で、2.0リッター ガソリン エンジン85kw(115PS)と1.9リッターTDI直噴ターボディーゼル66kw(90PS)の2タイプが同価格で用意されています。両エンジンとも高トルクで、快適かつパワフルな乗り心地を楽しめるだけでなく、ガソリンエンジンのトップスピードは185

km/h、TDIは171 km/hと、走行性にも優れています。優れた走行性に加え、ニュービートルは低燃費で、排気ガス量もきわめて低く抑えてあります。2.0リッターエンジンの燃費は、無鉛スーパーグレードガソリンで100 kmあたり8.7リッターで、EU- 排ガス規制の条件に適合するフォルクスワーゲン最初のエンジンとなっています。TDIディーゼルエンジンの燃費は、MVEGテストで100 kmあたりわずか5.2リッターで、EU- -D排ガス規制に適合しています。

室内は明るく、風通しのよい丸みのあるデザインで、洗練された陽気なカラーコーディネートが、ニュービートルの外観にぴったりマッチしています。大型のウィンドウとカーブしたルーフが、室内を広々と感じさせ、特にフロントシートにはゆとりがあります。テールゲートが垂直に開くので、209リットルのラゲージルームをきわめて有効に使用でき、必要に応じてリヤシートを倒してラゲージスペースを広くすることができます。

昔ながらの大型の丸いインストルメントパネル、フラワーベース(一輪ざし)、リヤシート用のグラブストラップは、多くの人々がなつかしく感じることでしょう。また、標準装備の6スピーカー ラジオシステム、さらにオプション装備のエアコン、革張りインテリア、CDチェンジャー、チルト機構付電動スライディングサンルーフなど、現代のクルマとしての満足度を高める装備も充実しています。

なお、ニュービートルの日本導入については、1999年秋以降を予定しています。